



安全な医療に ご協力いただくために



千葉ろうさい病院

【患者さん・ご家族の方へのお願い】

- ◆患者さんご自身の健康に関する情報は出来るだけ正確にお伝えください。
- ◆検査や治療に関する説明を受けてもよく理解できない場合は、納得ができるまでおたずねください。
なお、説明は原則として診療時間内となります。
- ◆院内では、治療上必要なルールがありますので、お守りください。
- ◆すべての方が適切な医療が受けられるように、他の患者さんの迷惑にならないようにご配慮ください。
- ◆当院は研修医、看護学生などが見学や実習、研修を行っています。ご理解とご協力をお願いいたします。
- ◆当院は急性期病院として多くの患者さんを受け入れるために急性期治療が終了した段階で退院となります。
急性期の治療が終了するころに退院の準備をお願いいたします。
- ◆院内での撮影、録音はご遠慮ください。

入院患者さんやご家族には当院の地域医療に係る役割をご理解頂き、ご協力くださるようお願いいたします。



1. 【氏名確認にご協力ください】

患者さんの安全確認のため、入院中の全ての患者さんに氏名を記入した「ネームバンド」を着用していただいております。

- ◆ 患者さんご自身もフルネームを名のっていただくようお願いいたします。
- ◆ 点滴や採血、検査やレントゲン、手術の前には必ず 氏 名 を確認いたします。
- ◆ 万一医療者からの確認が不十分な場合、患者さんから確認の言葉をお願いいたします。

ネームバンド実物



2. 【お薬の申告と持参のお願い】

患者さんが使用しているお薬について正確に把握することは治療を行う上でとても大切なことです。

入院時に薬剤師が現在使用しているお薬とお薬手帳をお預かりしてお持ちいただいたお薬の数量や内容を確認させていただきます。

お持ちいただきたいもの

1. 医療機関から処方された現在使用しているお薬（予定される入院期間分）
飲み薬の他、目薬、貼り薬、塗り薬、吸入薬、注射薬、坐薬、点鼻薬も含みます。
2. 「お薬手帳」、「お薬説明書」など薬の飲み方がわかるもの



お薬、薬袋



お薬手帳



お薬説明書

◇一時的に休薬指示を受けたお薬や入院後に使用する予定のあるお薬がある場合もお持ちください。

◇お薬の数が入院中に足りなくなることがないように入院日までに、準備しておいてください。

◇午前中に入院される方は、お昼のお薬は手元に保管しておいてください。

3. 【アレルギー予防にご協力ください】

患者さんによっては、お薬や食べ物でアレルギーを起こす場合があります。アレルギーを起こした経験のある方は、医師・看護師・薬剤師にお伝えください。お伝えいただいた情報をもとに、安全な食事や薬剤の提供に細心の注意をはらいます。患者さんご自身でも配膳された食事やお薬についてご確認ください。

下記のような経験をした方は、医師・看護師・薬剤師にお伝えください。

- ◆食べ物でアレルギーを起こした経験のある方
- ◆お薬による副作用（かゆみや発疹）が起こった方
- ◆検査時の造影剤などで、かゆみ、顔のほてり、めまい、吐き気などの症状の経験がある方
- ◆アレルギー体質のご家族（両親・兄弟など）がいらっしゃる方
- ◆アレルギーのある薬や食べ物が提供された場合は服用・摂取せず、職員へお知らせください。



4. 【転倒・転落予防にご協力ください】

入院中は不慣れな環境や、状態の変化により筋力や注意力が低下し、思いがけず転んでしまうことがあります。高齢の方や体調を崩された方は特に注意が必要とされています。歩行中の転倒やベッドからの転落には十分ご注意ください。

1) 転倒・転落を防ぐためのお願い

《入院時の持ち物で気をつけること》

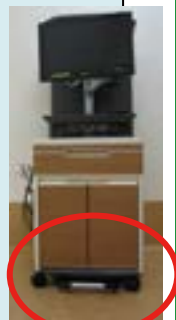


スリッパやサンダルは禁止です。

- ＊かかとのある履きなれた靴や滑らない靴にしてください。
- ＊メガネ（自宅で使用しているもの）を持って来てください。
- ＊ねまきやパジャマは体にあった長さのものを用意してください。

《ベッドサイドで気をつけること》

- ＊足に力が入るか確認してから動きましょう。
- ＊点滴台やテーブル、テレビ台などの不安定な物につかまらないようにしましょう。
- ＊床頭台下方にある足元灯のセンサーが人の動きを感知して点灯します。
- ＊ベッドの上で立ち上がらないようにしましょう。
- ＊遠慮なくナースコールで看護師を呼ぶようにしましょう。
- ＊ベッド柵をつけましょう。



足元灯⇒

《トイレで気をつけること》

- * 手すりにつかましましょう。
- * トイレが終わったら、介助が必要な方は、遠慮なくナースコールで看護師を呼ぶようにしましょう。
- * 気分が悪くなったら、遠慮なくナースコールで看護師を呼ぶようにしましょう。



2) 転倒・転落を起こすと・・・

転倒・転落によって切り傷・打撲にとどまらず出血や骨折などを起こし、本来の病気以外に新たな治療が必要になる場合があります。

※小児科のお子さんの転倒・転落の危険についてはご家族の方にご確認をお願いしています。



5. 【褥瘡（床ずれ）予防にご協力ください】

入院中、ベッド上の生活で思うように体が動かせない場合には注意が必要です。

床ずれは、かかと・お尻・背中などの骨の出っ張り部分の組織の血行が悪い所にできやすくなります。

また、栄養低下があると、床ずれがしやすいです。

皮膚の痛み、赤み・水ぶくれなどの軽い症状から、進行すると皮膚潰瘍に至ることがあります。

- ◆床ずれ予防のため、定期的に体の向きを変えたり、マットレスの種類を変更する場合があります。
- ◆マットレスにあたる骨の出っ張り部分に痛みがある場合は、看護師にご相談ください。
- ◆患者さんの状態によっては、担当の医師や看護師の他に院内の「褥瘡対策チーム」によって治療を行うことがあります。



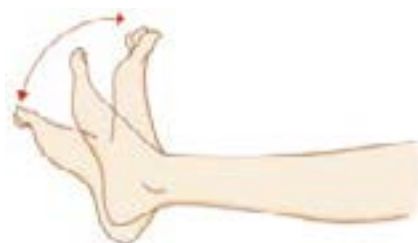
6. 【深部静脈血栓症（エコノミークラス症候群） 予防にご協力ください】

手術や治療のためベッドで寝たきりの状態が続くと、下肢から戻ってくる血液の流れが悪くなり、血のかたまり（血栓）ができやすくなります。血栓が肺へ流れていくと肺の血管を詰まらせ（肺塞栓）、胸痛や呼吸困難などの重い症状を起こすことがあります。

- ◆過去に深部静脈血栓症と診断されたことがある方は必ずお知らせください。
- ◆手術を受ける患者さんには血栓予防ストッキングを使用させていただきます。
- ◆手術後、下肢に圧迫ポンプを使用する場合があります。
- ◆ベッド上でできる下肢の血栓形成予防にはこのような運動が効果的です。



ベッドの上で足を
動かす



底背屈運動

かかとをつけ、ゆっくり
足を前後に動かす

7. 【感染対策にご協力ください】

入院中は治療の影響により、普段よりも体の抵抗力が弱ることがあります。院内感染を予防するために以下の点についてご協力をお願いいたします。

1) 手洗い

食事の前、トイレの後、病室に出入りする時などは手を洗ってください。洗面所に石鹸とペーパータオルを設置しております。目に見える汚れがない場合も、アルコール性手指消毒剤が有効です。病室前に設置しておりますので、ご利用ください。



2) 咳エチケット

咳エチケットとは、風邪やインフルエンザをはじめとする呼吸器の感染症の広がりを予防するための対策です。

- * 咳やくしゃみがある場合はマスクをつけましょう。
- * 痰や鼻水に触れたあとは手を洗いましょう。
- * 医師や看護師からマスクの着用をお願いすることもありますのでご協力をお願いいたします。



3) 面会について

短時間(30分以内)、最小限(ご家族2～3名以内)での面会となります

平日・土・日・祝日	14時から17時まで
-----------	------------

■面会は他の患者さんの療養等の妨げにならないよう
をお願いします。

■感染防止のため

- ・体調不良の方の面会は出来ません
- ・飲食は出来ません

■面会受付（受付場所は下記参照）を済ませ病棟へ
お上りください

全 日 : 入院棟1階患者用エレベーター前

■面会される場所は原則、各フロアのデイコーナーに
なります。

*なお、感染症拡大時など、必要な措置として面会の
大幅な制限をお願いする場合があります。

9. 【その他】

- 1) 「入院したことを他人に知られたくない」という方は、
1 階患者サポートセンター 入退院準備窓口または、
看護師にお知らせください。
- 2) 食中毒の防止のため、以下の点にご注意ください。
 - * 患者さん同士の食べ物のやりとりはしないでください。
 - * 配膳された食事は出来るだけ早めにお召し上がりください。
 - * 刺身・寿司・生卵などの「ナマモノ」のもち込みはおやめください。

診療・研究・教育の進歩のための 診療情報活用について

当院は、最先端の医療の提供を目指す医療機関です。このため、通常の診療の他、医療に関する詳しい集計、新しい診断・治療の研究、研修医の教育などの使命も担っています。最先端の医療を提供するには、診察や検査を通じて詳しい情報を得ていく必要があります。

個人から得られた情報を診療に役立てることはもとより、診療・研究・教育の進歩のために、多くの方々の情報と併せて下記の情報を詳しく検討活用していくことも欠かせないものと考えております。

- ①診療録(カルテ)において文章や絵で書かれている症状、病歴、経過、診断名、検査、結果、紹介状など
- ②身体から採取される血液、尿、皮膚、粘膜、臓器など
検体・試料
- ③検体や試料を使って行われる検査、生体検査（診断図や脳波）の結果
- ④臨床写真、エックス線写真、CT、MRI、内視鏡や超音波で撮影された写真など

診療・研究・教育の進歩のために、以上の趣旨をご理解のうえ、診療情報を活用させていただくことにご協力をお願いいたします。

なお、活用にあたっては、氏名・住所・電話番号などの個人情報が特定されることのないよう、適切に処理いたしますのでご安心ください。この件に関して同意できない方は、正面玄関に用意しております「診療情報活用不同意書」に必要事項を記入の上、受付窓口にご提出ください。

迷惑行為により 診療をお断りすることがあります

当院では、次のような迷惑行為があった場合、診療をお断りし、必要に応じて警察へ通報します。

患者さんの安全を守り、診療を円滑に行うとともに、最善の医療を提供するためにも、ご理解ください。

- ①職員や他の患者さんにセクシャルハラスメントや暴力行為があった場合、もしくはそのおそれ強い場合
- ②大声、暴言または脅迫的な言動により、職員の業務を妨げたり、あるいは他の患者さんに迷惑を及ぼした場合
- ③不当な要求を繰り返し行い、病院業務を妨げた場合
- ④建物設備などを故意に破損した場合
- ⑤必要のない危険な物品を院内に持ちこんだ場合



入院される患者さん・ご家族の方へ

手術やお薬・病気の影響でお体のバランスが崩れることによって起こる“せん妄”についてご存知ですか？

せん妄とは、話す言葉や行動に一時的に混乱が見られる状態のことを言います。入院している高齢者の10～40%はせん妄を経験し、手術を受けた患者さんの2人に1人は起こっています。せん妄症状は、夜間に見られる事が多いですが、長く続きません。

せん妄症状とは

幻視や妄想：コンセントが蛇に見える
いない人と会話する



興奮状態：大声を出す暴力
そわそわと動き回る



睡眠リズム障害：昼夜逆転
睡眠中も落ち着きない



認知症状：時間や場所がわからない
出来事を忘れる
会話が噛み合わない



せん妄を予防として

- ★ ご使用になっている時計・カレンダー等なじみの物をご持参下さい。
- ★ 普段ご使用になっているメガネや補聴器などご持参下さい。
- ★ 日中はカーテンを開け、日光を取り入れ明るくし、適度な運動や刺激（テレビ、会話、散歩など）をする。
- ★ ご家族の面会は癒しの時間です。時間の許す範囲で、面会にお越し下さい。患者さんにとって、ご家族の顔がみられることは大きな安らぎになります。



スタッフもせん妄予防に努めさせていただきますが、ご家族のご協力も宜しくお願い致します。ご質問やご意見がありましたら、ご遠慮なく病院職員へお申し出下さい。

